

共通テーマ「2009年スポーツあれこれ雑感」：スポーツNPO活動を通じて

著者	渡部 近志
出版者	法政大学体育・スポーツ研究センター
雑誌名	法政大学体育・スポーツ研究センター紀要 = The Research of Physical Education and Sports, Hosei University
巻	28
ページ	43-43
発行年	2010-03-31
URL	http://doi.org/10.15002/00007564

共通テーマ

「2009年スポーツあれこれ雑感」

スポーツNPO活動を通じて

渡部 近志
Chikashi Watabe

NPO/MIPスポーツ・プロジェクトの副理事長として、年に4～5回程度の【スポーツゲームス】事業に参加し、スポーツ教室や子供（園児、小学生低学年）らの運動教室、【親子コーディネーター】の指導を行っている。その一部の成果は、「愛媛県松山市地域再生マネージャープロジェクト」に於ける、【松山版コーディネーショントレーニングのDVDの作成】（著者は、陸上競技の走運動の要素を取り入れたコーディネーショントレーニングを担当した）や、【コーディネーショントレーニングの普及・指導者育成】【市内小学校へのコーディネーション運動の授業導入（15校の小学校での授業担当）】などを通じた活動であった。この運動のねらいとするところは大きくは運動操作能力、運動適応変換能力そして運動学習能力を高めることを目的としたものであり、平易に理解するとすれば【運動を操作する能力や運動を調整する能力、反応、バランス、そしてリズムなどの運動】である。平成20年度3月に小学校の新学習要領では、用具を操作する運動遊び、体づくり運動が取り組まれるようになったことも教育現場からの要望に応える形となった。運動を「もっと楽しく、そして親子で運動できるように工夫されたプログラムが【親子コーディネーター】であり、【親と子のスキンシップ】も同時に図りながらプログラムは進められていく楽しい時間の一時である。こうした運動の教育的効果は、大学生らにおいても十分期待できることから今後導入に向けて検討を行いたい。

【モデル1】：反応遊び（スポーツジャンケン）（何人一組ゲーム）－親子組体操－柔軟運動－ボール運動1（ジャグリング）－ボール運動2（トス・キャッチング）－お父さんの背中は大きいぞ（おんぶと抱っこ運動）－お父さんの脚はながいぞー（ジャンプ運動）－お父さんの背中は広いぞ（バランス運動）－お父さんと鬼ごっこーボールに気をつけて（ボール横断歩道）－親子・皆で協力（長縄走り抜け）－整理運動（約60分のプログラム）

下記の絵図は、歩いている人（著者）の動きを観察し【絵を描こう】というテーマで、運動教室の最後のプログラムの中で描いてもらったものです。

